

12月25日 経済水道委員会（岡田ゆき子議員・西山あさみ議員）

米国ボストン美術館 の収蔵品を展示

名古屋ボストン美術館 収支改善できず2018年度末で契約終了



12月25日の経済水道委員会で、名古屋ボストン美術館についての現状と見通しの報告がありました。

財界の強い要請で設立

名古屋ボストン美術館は名古屋商工会議所が中心になり、県と市が基本財産2億円、経営安定化基金30億円、財界も同2億円と44億円を負担（その後31億円追加）して、展示資料はすべてボストン美術館から借り受けるシステムで設立されました。

欧米で人気の趣向も市民に合わず

開館初年度（1999年）は70万人の入館者がありましたが、その後は予測した33万人には遠く及ばず、20万

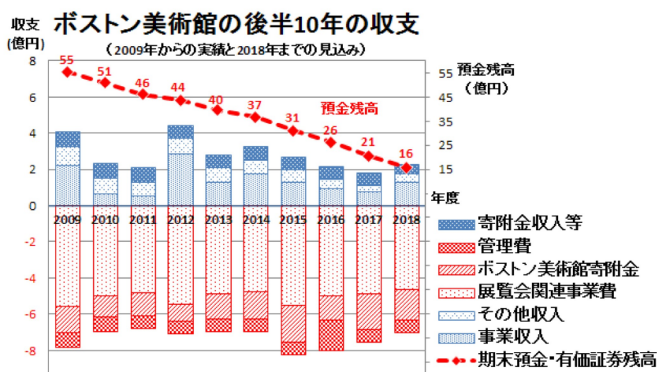
人前後で推移し、赤字が深刻化。開館10年で財界が拠出した運営資金が底をつきました。名古屋に展示品の選定権が無く、ボストンの所蔵品と他の美術品を一緒に展示できない、20年間でアメリカボストン美術館に5千万ドルの寄付などの契約になっていました。

契約変更でも赤字続き。県と市の経営安定化基金30億円も取り崩し

後半10年の存続のために契約変更を求め、寄付金残高を37億円から17億円に減額し、残る赤字見込み55億円を、財界が35億円、県と市の基金30億円のうち20億円を取り崩して継続することになったものです。

予定通りあと3年。その後は未定

報告では2019年3月に契約終了時まで、毎年5億円程度の赤字が続き、約16億円が残ることが示され、その後の予定は未定であると説明がありました。



名古屋ボストン美術館の経緯

年月	項目
1991年10月	名古屋商工会議所から設置場所の協力依頼
1991年11月	名古屋商工会議所内に「名古屋ボストン美術館設立準備委員会」
1993年10月	名古屋商工会議所及び準備委員会から名古屋市・愛知県に設立への財政支援の要請
1995年3月	名古屋市会が、運営財団の基本財産及び運営安定化基金への出損金予算を議決
1995年11月	財団法人名古屋国際芸術文化交流財団の設立（財団）
1995年12月	財団と米国ボストン美術館で、名古屋ボストン美術館の設立契約を締結
1996年1月	財団と名古屋市中、経営安定化基金に関する覚書を締結
1999年2月	財団と名古屋市中、公有財産有償貸付契約を締結
1999年4月	名古屋ボストン美術館開館
2006年2月	名古屋商工会議所及び財団から名古屋市・愛知県に、運営への財政支援の要請
2006年3月	財団と米国ボストン美術館の間で、名古屋ボストン美術館の運営に関する契約書を締結
2006年5月	財団と名古屋市中との間で、名古屋ボストン美術館の運営に関する覚書を締結
2011年4月	公益財団法人へ移行

名古屋ボストン美術館の運営

運営団体	公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団
県・市の負担	基本財産：4億円のうち、県・市各1億円 経営安定化基金：30億円（県・市各15億円）
経済界の負担	基本財産：4億円のうち、2億円 運用財産：110億円 当初 44億円 追加 31億円 再追加 35億円
契約期間	2019年3月31日までの20年間
事業内容	①名古屋ボストン美術館の運営を通じて、愛知県民に米国ボストン美術館の世界的コレクションや国内美術館の名品を鑑賞する機会を提供する事業 ②愛知県民に対して国際的な芸術文化に接する機会を提供する事業 ③愛知県の地味文化の振興を図るため、シンポジウム、講演会等を開催する事業 ④その他この法人の目的を達成するために必要な事業

名古屋ボストン美術館の運営に関する覚書（2006年5月）

- ①経営安定化基金を取り崩す場合、限度額は10億円
- ②取り崩しは運用財産を先に充当する
- ③企画展は、市民ニーズを踏まえ展示のテーマ及び作品を決めるとともに、多くの来場者につながる展示の工夫をする
- ④新たな財政上の支援要請があっても行わない

米国ボストン美術館

Museum of Fine Arts, Boston

創設：1870年

開館：1876年7月4日

コレクション総数：約45万点

